

開会挨拶 長尾 眞 先生

今日は、第4回産業日本語研究会シンポジウムにおいて下さってありがとうございます。予稿集の中を見ていただきますとプログラムがございますが、今日はCMUの三田村照子先生をお招きして、テクニカルライティングやそれに伴う制限言語、産業的な言語についてお話を頂くことになりました。非常に面白い、参考になる内容が多々あると思いますので、皆様方には良く聞かれて、夕方の懇親会でもチャンスを見つけて意見交換をしていただければと思います。今回もいくつもの講演がございます。デモ展示もございますのでそちらも楽しんでいただければと思っています。

産業日本語とは何か、なかなか定義しにくいのですが、書かれた文章が誤解を招かない、一義的に解釈が成り立つものでなければなりません。技術的な内容を扱う文章がきちんと伝達され、きちんとオペレーションがなされなければなりません。曖昧に伝わって、間違ったオペレーションを行うと大変なことがおこります。マニュアルについても一義的に解釈できるという文体で書かないといけません。機械翻訳とか外国にマニュアルを送り出すときには正しく翻訳できることも大切です。何はともあれ、間違った解釈をされないような日本語、英語を作り出すときの準拠となるものが必要です。

どういう風を書くかもこれからのテーマです。1ページの文章を書くときに、1つのパラグラフに複数の問題を提起されると理解しにくく、また誤解を生みますので、1つのパラグラフには1つのテーマを決めて書くように、文章全体を組み立てることはマニュアルを書く人は大いに注意すべきです。パラグラフ単位に小見出しを付けてパツパツと分かり易く理解しやすい文章構成にしなければいけません。このように文章全体の構成まで産業日本語を議論して具体化していくことが必要です。PC等の道具で旨く書くことができ、記録しておいて、検索が簡単にでき、人に伝えることもうまくできて、翻訳して海外に伝えることもできるようになることといったいくつもの目標があります。そろそろそういう議論をして、産業日本語の議論を充実したものにしていく必要があります。何はともあれ、プラクティスが伴わないことを議論しても実質的になりません。WPが30年前に作られ、今日まで磨きをかけられ便利なものになったように、産業日本語も議論し始めてから数年になりますから、産業日本語を扱えるWPとか産業日本語の文章支援システムを作って、それを皆が使って、ポリッシュアップしていく時期になっています。そういう意味でデモンストレーションもございますので、ご覧いただき、改良すべき点等をおっしゃってくださるようお願いいたします。

息の長い話かもしれませんが、日本語WPがここまで来たということは、我々にとっても

心強いことで、産業日本語も必ずや、10年、15年のスパンで考えると、今はモタモタしているように見えますが素晴らしいものになっていくのではと期待しております。今日参加いただいた方々もそういう方向で頑張っていたらとありがたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。